

國立民族學博物館
National Museum of Ethnology

博物館 と こども

博物館は、こどもたちにとって新しい世界や価値観と出会うことができる、かけがえのない場です。こどもたちの経験を豊かにし、意味あるものにするために、博物館はどのような環境をデザインすることができるのでしょうか？このオンライントークでは、館種を越えて、博物館におけるこども向けの事業についての情報共有や意見交換をおこない、よりよい実践や活動を考えます。

第1回 2021年10月25日(月) 13:30~15:30

博物館をあじわう：常設展示に関するこども向け観覧支援ツールの開発について

第1回はこどもを対象としたパンフレットやワークシートなど、こどもの観覧を支援するツールについて考えます。その開発経緯や運用について開発者よりご報告いただき、また参加者のみなさんの現状や疑問を共有することで、こども向け観覧支援ツールの意義や開発・運用する上での大事なポイントを共有します。

＊ 開会のあいさつ 吉田憲司（国立民族学博物館 館長） ・ 趣旨説明 岡田恵美（国立民族学博物館 准教授）

博物館での過ごし方を提案する一みんぱくの新アクティビティ・カードとこどもパンフレットー 干場遼（国立民族学博物館 技術補佐員）

ホントに古墳でコーフンできる！？こども向けワークシートの実践について 福田和浩（八尾市立しおんじやま古墳学習館 館長）

館内マップのデザインに込めた利用者経験の可能性一歴博子どもマップの開発事例からー 佐藤優香（東京大学 客員研究員）

＊ コメンテーター 嶋和彦（浜松市楽器博物館 前館長）、藤吉祐子（国立国際美術館 主任研究員）

第2回 2021年11月22日(月) 13:30~15:30

博物館をとどける：こども向けアウトリーチプログラムについて

第2回は博物館以外の場所に出向いておこなうアウトリーチプログラムについて、その目的や実践方法、アウトリーチならではの工夫についてご報告いただきます。とくに近年は、新型コロナウイルス感染症の蔓延のため、アウトリーチの実施方法の再検討が必要となっています。このような中で、博物館をどのようにこどもたちに届けることができるのか、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける前と後での実施方法の変化や工夫、参加者の反応についても議論します。

＊ 開会のあいさつ 関雄二（国立民族学博物館 副館長） ・ 趣旨説明 岡田恵美（国立民族学博物館 准教授）

博物館をとどけるー世界とつながるみんぱくのアウトリーチー 五月女草子（国立民族学博物館 特任専門職員）
神野知恵（国立民族学博物館 特任助教・人文知コミュニケーション）

小さなこどものワクワクを広げる、エコロコ わ 辰村絢（兵庫県立人と自然の博物館 こども環境体験コーディネーター）

こどもたちの笑顔に出会うー体験を通じた印刷出版の理解ー 中西保仁（印刷博物館 学芸員・課長）

展示の移動から、くらしの移動へー移動楽器博物館の試行錯誤ー 嶋和彦（浜松市楽器博物館 前館長）

＊ コメンテーター 八木剛（兵庫県立人と自然の博物館 主任研究員・研究グループ長）

申込みについて

事前予約・定員制での開催です。

- 定員：各回 50 名（先着順）
参加希望の回それぞれにお申込みください。
- 受付期間：10月6日（水）10:00～
定員になり次第受付終了
予約状況はイベント予約サイトでご確認ください。

申込み方法

- イベント予約サイトからのお申込み
[第1回] [第2回] それぞれ受付しています。
代表者を含め2名までお申込み可能です。

イベント予約サイト

<https://entry-reservation-event.minpaku.ac.jp/>

イベント予約サイト
QRコード



国立民族学博物館
National Museum of Ethnology

【お問い合わせ】国立民族学博物館 企画課 博物館事業係
E-mail: workshopinfo@minpaku.ac.jp Tel: 06-6878-8210 (10:00~16:00 土日祝除く)

本事業は国立民族学博物館「博物館・展示を活用した最先端研究の可視化・高度化事業」の成果の一部です。